

川上善兵衛略年譜

西暦	和暦	年齢	
一八六八	慶応四年	〇	三月二〇日 頸城郡北方村（現上越市北方）の地主川上善兵衛の長男として生まれる。 幼名 芳太郎
一八七五	明治八年	七	四月 父善兵衛死亡につき家督を相続し、六代目善兵衛となる。
一八八二	一五年	一三	一月 高城村（現上越市）木村容齋の塾に入り、漢学を学ぶ。
		一四	短い期間であるが慶応義塾の門を叩く。
一八八六	一九年	一八	九月 宮崎ヲコウと結婚。（ともに一八歳）
一八八七	二〇年	一九	東京下谷の小平善平に新しい葡萄の品種や接木の方法について教えを受ける。 山梨で葡萄栽培の初歩を学ぶ。
			六月から七月の間、自家の庭園をこわし果樹栽培の準備をする。
一八九〇	二三年	二二	「岩の原葡萄園」と名づける。
一八九一	二四年	二三	四月 宅地内にはじめて九種類の洋種葡萄苗木一二七株を栽植。
一八九二	二五年	二四	九月 前年栽植したバレスタインその他数種類の美果を収穫。
			山梨に土屋龍憲を訪ね、フランスの醸造方法を本格的に学ぶ。
一八九三	二六年	二五	九月 初めてぶどう酒五石余を醸造するも発酵温度高く、酸味強し。
一八九四	二七年	二五	二月 妻ヲコウと離婚。
一八九五	二八年	二七	五月 第一号石蔵落成する。
			九月 第一号石蔵において四〇石余の葡萄酒を醸造する。 本年はじめて密閉醸造の装置を用いる。
一八九七	三〇年	二八	二月 『葡萄種類説明目録』発行。（題字 勝安芳）
一八九八	三一年	二九	一月 葡萄酒とブランデーに「菊水」登録。
		三〇	八月 第二号石蔵竣工。
一八九九	三二年	三〇	一月 師勝海舟死亡。
			三月 『葡萄種類説明』発行。
一九〇〇	三三年	三一	九月 『葡萄栽培書』発行。（序文 品川弥二郎）
			四月 子爵平松時厚の次女達子と再婚。
一九〇一	三四年	三三	一〇月 高士村村長に就任。
			四月 『葡萄栽培提要』発行。
			一〇月 栽培葡萄の種類三五〇種をこえる。
一九〇二	三五年	三四	五月二十九日 皇太子殿下（のちの大正天皇）御一行岩の原葡萄園へ行啓。
			六月 「農家の光」（行啓記事）を知人に頒布。
一九〇三	三六年	三五	四月 善兵衛設計による高士小学校落成。 （妙賀・稲谷の二尋常小学校および高等小学校が統合）
			七月 第五回内国勸業博覧会に出品した葡萄苗木が一等賞を受ける。
一九〇四	三七年	三六	一〇月 葡萄酒の販売業を「日本葡萄酒株式会社」（社長 富永孝太郎）に委託。
一九〇八	四一年	四〇	四月 日露開戦により陸海軍衛生材料として「菊水」印葡萄酒を採用される。
一九〇九	四二年	四一	一二月 『葡萄提要』発行。
			八月 『記念帖』発行。（題字 小野湖山）
			『葡萄業に関する卑見』を政府に提出。
一九一一	四四年	四三	六月 生涯の友とした武田範之死亡。
一九一二	四五年	四四	五月 『行啓回顧録』発行。
一九一三	大正二年	四五	八月 政府の依頼により、朝鮮満州の葡萄栽培状況を視察。
一九一四	三年	四六	五月 『満鮮葡萄業視察報告書』発行。
一九二二	一一年	五三	二月 恩田博士の斡旋により興津清見寺の不二庵に入り著作生活を開始する。
		五四	六月 メンデルの遺伝法を葡萄に応用して品種の改良をはじめる。 この研究は昭和一八年まで続く。
一九二三	一二年	五五	八月 久邇宮一族岩の原葡萄園へ御台臨。 （御一行 中良子女王殿下は昭和天皇の香淳皇太后）
一九二七	昭和二年	五九	春 豪雪により葡萄樹を折損。このため本年の葡萄酒の生産高は二〇〇石に達せず。 マスカット・ベリーーA他優良品種生まれる。
一九三二	七年	六四	一〇月 『葡萄全書』（上篇）発行。
			一二月 『葡萄全書』（中篇）発行。
一九三三	八年	六四	一月 『葡萄全書』（下篇）発行。
一九三四	九年	六六	六月 「寿屋」（現サントリー（株））と共同出資で「株式会社寿葡萄園」を設立。 （昭和一一年「株式会社岩の原葡萄園」と改称）
一九三七	一二年	六八	一月 達子夫人死亡。
一九四〇	一五年	七二	論文「交配に依る葡萄品種の育成」発表。
一九四一	一六年	七三	四月 日本農学会により論文「交配に依る葡萄品種の育成」に対し、 最高位の「日本農学賞」が授与される。
一九四四	一九年	七六	五月二二日 急性肺炎が悪化し、中頸城郡高士村大字北方の自宅で生涯を終える。